

2019 FIA APRC ASIA RALLY CUP powered by WURTH Rd.3 2019 JAPAN SUPER RALLY SERIES Rd.2  
2019年JAF全日本ラリー選手権第5戦 2019年JAF東日本ラリー選手権第6戦 MONTRE 2019 [JAF公認No.2019-0007]

開催日：6月6～9日 開催場所：群馬、長野 格式：国際/国内 主催：AG.MSC北海道 [クラブ登録No.公認01001]、  
JAC [クラブ登録No.加盟10003]、MOSCO [団体登録No.加盟10003]

フォト/中島正義、水野文幸、JAFスポーツ編集部 レポート/JAFスポーツ編集部

地元群馬伝統の一戦を制してシーズン2勝  
目一番乗りの新井敏弘/田中直哉組WRX。



## サバイバル戦を制した新井敏弘組が2勝目獲得!

**全**日本ラリー選手権は6月上旬に行われた第5戦モンレー 2019から本格的なグラベルラウンドに突入した。今回のモンレーは2日間、18本、計102.02kmのSSを走り込むトータル486.2kmのロングディスタンスラリーが用意された。

注目を集めたのはNEWステージである「MAT SUSHIRO」。今年もギャラリーステージとして設定されたスポーツランド信州ステージに程近い山間部を走るこのステージはLEG1で9.6kmをまず2回走行。LEG2は逆走となり、9.77kmを同じく2回走る。SS全体の4割近くを占めるこのステージの速さが大きく影響することは間違いなかった。

またグラベルラリーとは言え、今回も設定されたオールターマックの「MINENOHARA」も

11.28kmをLEG1で2回走るとあって、タイヤ戦略等も通常のグラベルラリーとはまた違った難しさが求められる一戦となった。天候は梅雨時期の開催とあって、金曜のセレモニアルスタートから、なかなか日光には恵まれず、LEG1の午後、嬌恋エリアのみ陽が差したものの、雨、曇天そして霧とハードなコンディションが続くラリーウィークとなった。

10台が参加したJN1クラスは、この地元の一戦を得意とする新井敏弘/田中直哉組がSS1、SS2と連続ベスト。注目のSS4MATSUSHIROでは2番手の奴田原文雄/佐藤忠宜組を6.8秒差に下すスーパーベストをマークしてリードを広げた。

一方、前戦久万高原ラリーで衝撃の“復帰戦デビューウィーン”を飾った新井大輝/小坂典嵩

組はSS4でパンクを喫して、大きくタイムロス。しかしMINENOHARAで2本ともぶつちぎりのベストを叩き出したのが奏功して、新井敏弘組には27秒と大きく水を開けられたものの、4番手で挽回してラリーを折り返した。

LEG2に入ると鎌田卓麻/鈴木裕組と新井大輝組が互いにベストタイムで応酬する2位争いを展開。一時は鎌田組が、MATSUSHIROリバーズのSS12から3連続ベストで2位をキープしたかと思われたが、SS15GUNMAZAKAでタイムロス。再び大輝組の接近を許してしまう。

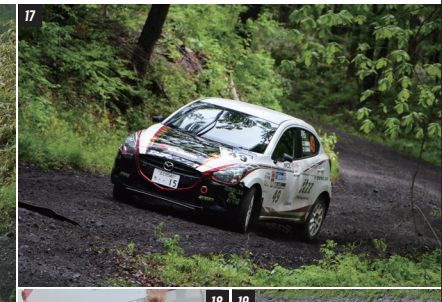
2台の戦いは鎌田組1.9秒のリードで最終SSを迎えたが、そのAZUMAYAステージはコンディション悪化のためにキャンセル。鎌田組が2位を確定した。大輝組は3位に甘んじたものの、LEG2はトップで上がり、貴重なデイイン



**JN1 / 1.**LEG2は2番手で終えた鎌田卓麻/鈴木裕組だが、LEG1の遅れを取り戻せず2位でゴール。**2.3.**LEG2はベストで上がるなど今回も速さを見せた新井大輝選手。舗装で群を抜く速さを見せた。**4.**得意とする新設定のステージでの速さが際立った新井敏弘/田中直哉組が2勝め一番乗りを果たした。



**JN2・JN3** / **5.** JN2 眞貝知志 / 安藤裕一組はLEG1、舗装で稼いだ大量マージンを守って開幕からの連勝記録を伸ばした。**6.** JN2 上原淳 / 漆戸あゆみ組はLEG2ベストで上がるも、2位にとどまった。**7.** JN2 竹岡圭 / 佐竹尚子組はサブバトル戦を走り抜いて3位入賞。**8.** LEG1は首位で折り返したJN3 曾根崇仁 / 木村裕介組だが逆転を許し、2位。**9.** JN3の3位には若手の和氣高暁 / 久保田真生組が受賞。**10.11.** JN3はLEG1で背負った17.3秒のビハインドを跳ね返した山本悠太 / 山本磨美組が逆転優勝を飾った。



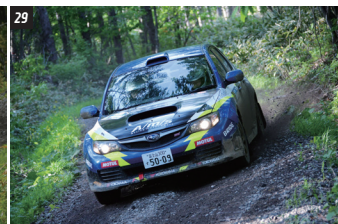
**JN4・JN5・JN6** / **12.** JN4は硬軟選ばぬ速さを見せた関根正人 / 草加浩平組が大差で今季初優勝を飾った。**13.** JN6はグラベルラウンドに入っても変わらず速さを見せた大倉聡 / 豊田耕司組が快勝。**14.** いとうりな / 大倉瞳組はLEG1の2位を守り切ってゴールした。**15.** 香川秀樹 / 松浦俊朗組はJN4の2位に入賞。**16.** LEG2で激走を見せた石川昌平 / 竹藪英樹組がJN5で2位に入賞。**17.18.** JN5は岡田孝一 / 小林剛組が優勝。岡田選手は約3年半ぶりとなる勝利の美酒に酔った。**19.** JN4で3位入賞の古川寛 / 大久保毅組。**20.** JN6で3位入賞は伊藤隆晃 / 大高徹也組。**21.** 小川剛 / 佐々木裕一組はJN5で3位に入賞。

トを獲得した。  
鎌田組に14.5秒差で逃げ切った新井選手は、「MATSUSHIROは2本めは自分もバンクしたほどたしかに危ない道だったけど、全部抑えて走ればいいのかというそうじゃなくて、そのまま行った方がいい所もある。結局は経験ってことになると思うけど、今回はその差が出たと思う」と勝因をひとこと。シーズン2勝目一番乗り、安堵の表情を浮かべていた。

史組の優勝候補クルームも、ともにそれまで首位を走行していながら、このステージでリタイヤを余儀なくされた。代わってJN4は関根正人 / 草加浩平組、JN5は岡田孝一 / 小林剛組というラフグラベルの扱いに長



**JAF 東日本ラリー選手権** / **22.** 細谷裕一 / 東駿吾組はBC4で優勝。**23.** BC2で優勝の上原利宏 / 佐瀬拓野組。**24.** BC3は伊東太志 / 美細津正組が優勝。**ヒストリックシリーズ** / **25.2C** 優勝の眞作有俊 / 眞作裕子組。**26.** 2B優勝の高藤峰夫 / 小川博敏組。**27.** 1A優勝の新垣浩 / 新垣久美子組。



**28.** APRC アジア・ラリーカップは川名賢 / 伊勢谷巧組が優勝。**29.** 日本スーパーラリーシリーズは小西重幸 / Tsung Yu HSIEH 組が優勝した。

JN2クラスでは眞貝知志 / 安藤裕一組が、グラベルを得意とする上原淳 / 漆戸あゆみ組の追撃を受けながらも、MINEN OHARA での圧倒的なベストが効いて開幕5連勝を達成。JN3クラスは、

LEG1を3位で折り返した山本悠太 / 山本磨美組が、LEG2で6連続ベストの快走を見せて一気に首位に浮上し、こちらも4連勝を飾った。  
今回のモンレーはFIAアジア・パシフィックラリー選手権アジア・ラリーカップの懸かる一戦として行われたが、こちらはシトロエンDS3を駆った川名賢 / 伊勢谷巧組が優勝。同じく併催となった日本スーパーラリーシリーズでは小西重幸 / Tsung Yu HSIEH 組が優勝した。